井の頭恩賜公園開園100周年カウントダウン新聞

井の頭 いのきちさん 吉祥寺 三鷹

24号
2015年9・10月号

2015年（平成27年）9月1日

● 編集・発行
いのきちさん編集委員会
編集長　川井啓良
東京都三鷹市上連雀 1-12-17
株式会社文伸　気付
電　話 0422-60-2211
ＦＡＸ 0422-60-2200
メール inokichi@bun-shin.co.jp

● 協　力
東京都西部公園緑地事務所
東京都井の頭自然文化園
井の頭恩賜公園100年実行委員会
NPO 法人みたか都市観光協会
一般社団法人武蔵野市観光機構

● 制作支援
株式会社文伸 / ぶんしん出版

井の頭恩賜公園
開園100周年まで
あと1年8ヶ月

連載絵ホ　カイツブリのツブ助の巻　その❶

月夜の井の頭池で、カイツブリのツブ助はひとりぼっちで眠っていました。バシャバシャバリと言う音にびっくりして目を覚まし「怖いよ、誰か助けて！」と叫びましたが、もう親は助けてくれません。「大丈夫、お前を食べたりしないよ。」と黒い影が言いました。まるで大きな犬のように、目が光って見えました。

絵　せのうさちこ　　文　瀬能けい子

せのうさちこ　1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。
瀬能けい子さんは母親。

INFORMATION　2015年9月～10月

井の頭恩賜公園

【ネイチャー☆プログラム】 次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

- あおぞら実験室（井の頭池付近）　9月6日（日）
- グリーンバード（井の頭池付近）　9月13日（日）、9月27日（日）
- どんぐり広場（御殿山広場）　9月3日（木）
- ツリー☆マジック（第二公園）　9月5日（土）
- ツリートレック（第二公園）　9月13日（日）

詳しくはホームページをご覧ください。 http://www.i-np.jp/index.html に載せます。

- 野外劇フェスタ（風煉ダンス『泥リア』）（文化交流広場）　9月19日（土）～28日（月）
- 三鷹国際交流フェスティバル（文化交流広場・野球場とその周辺）　10月4日（日）
- 吉祥寺アニメワンダーランド（野外ステージ）　10月10日（土）、11日（日）
- 井の頭100祭（野外ステージ）　10月17日（土）、18日（日）
- 三鷹の森フェスティバル（文化交流広場）　10月18日（日）

井の頭かんさつ会

- 第125回「野鳥観察」9月26日（土）時間未定
- 第126回「（未定）」日時未定

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP http://www.kansatsukai.net/ に載せます。

1級渡邉安浩 のいのけん受験講座答え合わせ

Q1 ① 家光　② 鷹狩り
Q2 ① 井の頭かんさつ会　② 井の頭かいぼり隊
Q3 ① 1942または昭和17　② 5　③ 17

募集　井の頭公園の古い写真を集めています

◀昭和25年頃の井の頭池
写真提供：鈴木育男氏

2017年の井の頭恩賜公園開園100周年を記念して、井の頭公園の今昔を伝える写真集を刊行する予定です。井の頭公園の古い写真をお持ちの方で、写真集に掲載しても良い方はご一報願います。
なお、お借りした写真は、スキャニング後、速やかにご返却いたします。また、謝礼として、完成した写真集を謹呈いたします。

お問い合わせ　ぶんしん出版 ☎0422-60-2211（担当：宮川）
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 1-12-17

井の頭自然文化園の動物たちと飼育員　その5

ニホンリス と 高松美香子さん

夢中でえさをかじっていると思えば、追いかけっこするように駆け抜ける。そんなニホンリスの素のままの姿が見られる「リスの小径」は、井の頭自然文化園の人気のスポットです。いつもは活発なリスたちも、夏の盛りは様子が違います。枝に抱きついて、ともすると落ちかかったり、地べたにうつぶせになったり。「暑い時期はだらっとしていて、いつも以上に“まぬけ感”があります」と飼育員の高松美香子さん。

えさを隠すという習性でも、ときおり“まぬけ感”が現れるのだとか。「隠したえさを他のリスに盗られることもあるんです。ふかし芋をえさにしたときは、隠そうとして巣箱の隙間に塗り付けてしまって。土壁を塗る左官屋さんになったのかと思いました」と大笑い。

ニホンリスは本州や四国に生息し、武蔵野でも数十年前までは見られました。シマリスのようなほお袋を持たず、すっきりした顔立ちです。繁殖期は1月から8月と長く、1年に2回出産するメスもいます。

大好物はもちろんクルミ。でも意外と雑食で、野菜やドッグフードも食べます。子育て中のお母さんは、煮干しや殻付きゆで卵をせっせと食べて、カルシウムを補給。成長期の子どもたちは、動物性たんぱく質を好んで食べます。

小田原 澪（おだわら みお）　編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

24 今月のはな子

東洋医学の知恵？

今年も厳しい夏がやってきました。単なる気のせいなのか、地球温暖化の影響なのか、年々、暑さが厳しくなっているように感じます。私たちでも、夏の暑いときには食欲が落ち、冷たいそうめんなどを食べたくなりますが、ゾウのはな子も、この季節になると食べ物の好みが変わってきます。

この夏は7月2日からは季節物のスイカとナスを与えているのですが、その後、今まで残さず食べていたモモの缶詰を7月中旬から残すようになり、8月からはリンゴも食べなくなりました。8月中旬からはナスよりもスイカを好むようになり、毎日3玉も食べています。

東洋医学では、モモは体を温める作用があり、リンゴはどちらでもなく、スイカやナスは体を冷やす作用があるといわれていますので、暑さが厳しくなるにつれて、体を冷やす作用があり、ナスよりおいしいスイカをたくさん食べるようになったのかもしれません。

（井の頭自然文化園 副園長　堀秀正）

井の頭公園 生き物たち　その24　カラス

井の頭かんさつ会　田中 利秋（たなか としあき）　井の頭かんさつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外来魚問題にも取り組む。

ハシボソガラス

2種のカラスと、人間が変えた暮らし

井の頭公園には2種類のカラスがいます。「ハシブトガラス」と「ハシボソガラス」です。ハシブトはその名の通りくちばしが太く、カーカーと澄んだ声で鳴きます。ハシボソはくちばしが細く、やや小柄で、お辞儀をしながらガーガーと濁った声で鳴きます。じつは10年ほど前まではハシブトばかりで、数も今よりはるかに多数でした。元々は森林に住んでいた彼らは樹林のある公園を好み、そこをねぐらや営巣場所にして、市街地や住宅地へ餌を採りに通っていたのです。大量の生ゴミが路上に無防備に出されていた時代です。井の頭公園でも、ゴミ箱から溢れた弁当の残りや、来園者がコイやカモに投げるエサを得ることができました。自然の餌ももちろん食べるので、増えすぎたハシブトガラスは他の生き物の大きな脅威でした。例えばカルガモは、ヒナが毎日1羽のペースで減っていたのです。

2010年ごろから、早朝にハシボソガラスの姿を見かけるようになりました。開けた場所を好む彼らは鉄道の沿線や川沿いの広場などにいたのですが、しだいに行動域を広げ、ついに井の頭公園まで進出したのです。今では池の周りや西園を中心に、毎日姿を見ることができます。ハシボソが進出できたのは、競合するハシブトが減ったからです。生ゴミの出し方が改善され、公園は2003年4月でゴミ箱を廃止、2007年3月にはエサやり自粛運動を始めました。得られる餌が激減したため、ハシブトガラスはやがてそれに見合う数に落ち着いたのです。

カラスの減少はその被害に頭を痛めていた人間にだけでなく、他の生き物にもプラスになりました。カルガモのヒナは減り方がゆるやかになり、無事育つものも現れました。カラスはとても賢い鳥なので、観察していて飽きません。2種類のカラスがいれば、その違いや関係なども観察できます。2種類のカラス、カラスと人間、そして他の生き物が共存できるかどうかは、我々人間の行いしだいです。

ハシブトガラス

24 窮をふたたび　楽園はよみがえるか　カイツブリ通信

カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる、小さな水鳥です。池や川にカップルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

カイツブリの卵は約3週間で孵りますが、前号に書いた「上流ペア」の早すぎる卵は結局孵りませんでした。しかしペアはその産卵の10日ほど後に2個の卵を産み足しており、それが孵りました。他の2カップルも3羽と1羽のヒナを誕生させたので、7月中旬の井の頭池は再び賑やかになりました。

ところが、7月の終わりごろからカイツブリの数が減り始めます。おそらく大量のブルーギルのせいで、モツゴなどの稚魚がほとんど現れなかったため、餌不足に陥ったのです。親鳥たちは岸辺の草や岩にいる虫を探して子供に与えていましたが、自分の分を確保するのさえ難しく、子供たちに早すぎる独り立ちを促し、多くが池を去りました。まだ飛べない小さな幼鳥たちはやはり虫を探して命をつないでいましたが、親の庇護なしに生き残れる可能性はわずかです。

8月半ば、井の頭池で見かけるカイツブリは2羽か3羽に減りました。次のかいぼりに期待するしかなさそうです。

子供を追い払う親鳥

井の頭かんさつ会　田中 利秋　http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/

井の頭恩賜公園の歩み 第24話

「日本橋」の石灯籠、寄進したのは何者？

弁天堂正面にある太鼓橋の手前に、1対の石灯籠が左右に置かれています。台座の正面に大きく「日本橋」、そして側面に「天保四年と彫られています。弁天堂の周囲にある4対の石灯籠の中では、寄進者が少数で、刻まれた名が堂々と羽振りよさげに見えます。いったいどんな人たちだったのでしょうか。

▲『江戸買物独案内』は、業種別案内書【『井の頭公園まるごとガイドブック』より／国立公文書館蔵】

▲「日本橋」の石灯籠

武蔵野市立中央図書館の資料室で手がかりを探していたときに、『江戸町人の研究』（西山松之助編／吉川弘文館）という全5巻の研究書を見つけました。そこに収録されていたのが、さまざまな業種に分類された屋号が並ぶ『江戸買物独案内』です。「もしや、この中に日本橋の7人が見つかるかもしれない」と心踊らせたのでしたが、いかんせん、おびただしい数の似通った名が並んでいて、伊勢屋伊兵衛に至っては何度も出てきます。焦点を絞りあぐねて、ダメもとで7人の名前をWEB検索してみたところ、伊勢屋伊兵衛が、江戸時代から『にんべん』の名で知られる鰹節の老舗の屋号だったと知りました。そこで『江戸買物独案内』の鰹節問屋の部をあらためて開くと、石灯籠にある丸屋彦右衛門、丸屋治郎兵衛、遠州屋助三郎の名も並んでいるではないですか。

『江戸買物独案内』は、石灯籠が寄進された天保4（1833）年を遡ること9年、文政7（1824）年の発行で、ほぼ同時代です。『にんべん』に問い合わせると、当時の伊勢屋伊兵衛は6代目で、鰹節の形をした日本初の商品券を発行した商才の持ち主だったそうで、その商品券は今も日本橋の本店で見ることができるとのこと。ただ、石灯籠を寄進したかどうかは分からない、と。

『鰹節』（宮下章著／法政大学出版局）を紐解くと、江戸時代初期は大阪が鰹節問屋の主流でしたが、18世紀以降は江戸にも問屋が増え、出産祝いや結納品にも使われるようになった背景もあって、商売が盛んになっていたと書かれています。

美味しい出汁をひくのに不可欠な水。日本橋の鰹節問屋仲間が、その水を守る井の頭弁財天を信仰し、石灯籠を寄進したと推測するに至ったのは、そんな地道な探索の結果です。

安田 知代

安田 知代（やすだ ともよ）
編集者・ライター。「井の頭公園＊まるごとガイドブック」「懐かしの吉祥寺 昭和29・40年」編著。

私と井の頭公園 その24

100周年を機に、歴史的資料の展示もやりたいです

安田知代（三鷹市在住）

今から8年ほど前、安田知代さんから「川井さん、ぶんしん出版で井の頭公園のガイドブックを出しませんか」と声をかけられた。そして2年間かけて出版されたのが『井の頭公園＊まるごとガイドブック』である。安田知代さんの力作だ。それまで、井の頭公園に関する平明な総合ガイドブックは他になく、現在までゆるやかなロングセラーとなっている。

14年前に井の頭公園のすぐそばに引っ越してきたんですよ。井の頭公園駅から徒歩3分のところです。子供が小学2年生で、よく公園に遊びに散歩に行きました。そんなときに、ここは江戸時代の神田上水の源とか、徳川家康がここの水でお茶を淹れたとかの看板があるじゃないですか、いったい何なのだろうってね。それで調べてみようと思ったのですが、すぐに分かるような本がなかったのですよ。それで「井の頭公園のガイドブックをつくりませんか」と声をかけたのです。

編集していて一番面白かったのは、あの『にんべん』の発見ですね（↑今号「井之頭恩賜公園の歩み」ご参照）。それから、池の桜がいつ頃植えられたのか調べる過程で、府中郷土の森資料館や大田区郷土博物館の学芸員の方たちなどから次々とバトンを渡されるように桜の絵の数々に出会っていったときも、わくわくしましたよ。図書館の資料室にこもって資料を探したり、井の頭に長く住む方々にお話を聞いて回ったり……古い絵葉書を集めている方と出会ったり……公園のことばかり考えて動いていた2年間でした。

開園100周年を機に、歴史的な資料を一堂に揃えて、みんなで見られるようにできたらいいですね、自然文化園の資料館で一時期展示したりしてね、そういうのやりたいですね、やりましょうよ。

（合同会社いとへん共同代表　やすだともよ）

（聞き手・川井信良）

川井信良（かわいしんすけ）
70年代80年代に、三鷹でミニコミ「またんぴ」や「みたかきいたか」を発行。

よみがえれ！井の頭池 24

かいぼり隊に新人加入！夏から活動開始しています

▼8月2日に行われた水生生物についての講習。

去る7月、「かいぼり隊」の追加募集が行われ、19名が新しくメンバーに加わりました。8月からスキルアップのための講習を受け、すでに活動している34名とともにモニタリングや普及啓発活動にも参加し、冬に行われる「かいぼり27」で活躍することになります。息長く活動できる人が求められるため、主な募集方法が三鷹市と武蔵野市の市報だったこともあり、ほとんどが地域の方々です。

8月中の講習は、1回目がNPO法人生態工房の佐藤方博さんから水生生物について、2回目は東邦大学の西廣淳さんから水草についてでした。9月には、外来生物法やブラックバス対策の歴史についても学びます。

井の頭池の「かいぼり」は前回に加えて、これから平成27年度と29年度に2回予定されています。回を重ねるごとに、知恵と技が地域の中で深まっていきそうです。

第24回 イノカ・コガノメ

写真　古賀 親宗（こが もとのり）
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。『**いのきちさん**』は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発刊された100周年カウントダウン新聞です。名称は**井の頭公園の「いの」**、隣接する**吉祥寺の「きち」**、井の頭池が市内となる**三鷹市の三「さん」**を並べたものです。（奇数月1日の隔月発行です）

『いのきちさん』のホームページができました！更新中！
http://www.inokichisan.com/

スマートフォン対応

『いのきちさん』の感想やお問合せはメールでも受付けています。
inokichi@bun-shin.co.jp

『いのきちさん』を置いていただける所を募集しています。

R80 古紙パルプ配合80%以上再生紙を使用

VEGETABLE OIL INK

第5回 一級渡邊安浩のいのけん受験講座

今回は、いのけん1級問題です。
（　　）内を正しい文字で埋めてください。

Q1 御殿山の地名は、徳川（　①　）が（　②　）をする際に宿所を設けたことが由来となっていると言われています。

Q2 かいぼり25の後もボランティアで井の頭池の生物調査を続けている団体が二つあります。ひとつは2007（平成19）年から調査活動を続けている市民団体（　①　）で、もうひとつはかいぼりのために結成された（　②　）です。

Q3 井の頭自然文化園が開園したのは、（　①　）年の（　②　）月（　③　）日です。

答えは裏面のインフォメーションのところだよ